

地震の専門家が警鐘

大飯原発真下の破砕帯は、活断層の可能性

早急に調査するべきではないでしょうか

調査が終了するまでは

大飯原発3・4号の再稼働を判断しないよう町長に求めましょう



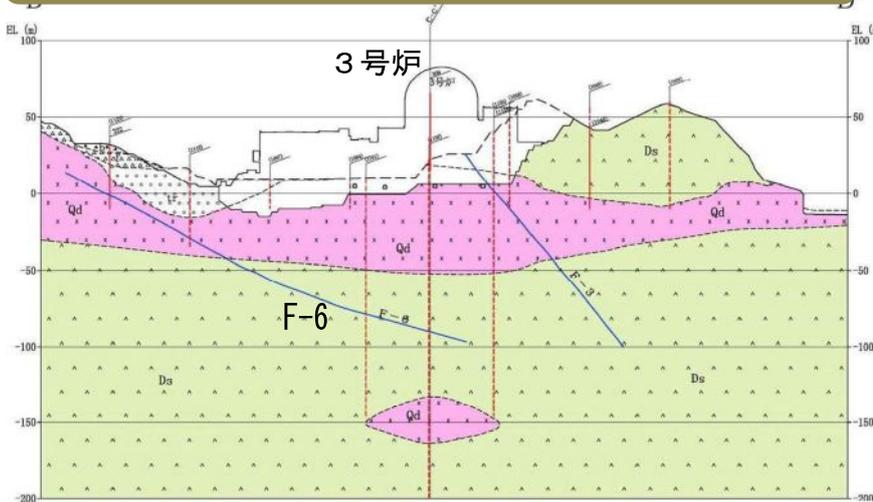
おい町長は、活断層が3連動した場合の安全性に特別な注意を払うべきだと何度も発言しています。そのような中、活断層が動いた場合に、原発直下の破砕帯も動く危険があると、専門家たちが指摘しました。

敦賀原発では、4月に行われた国の専門家の現地調査によって、これまで動くことのない破砕帯とみられていたものが活断層と評価しなおされました。40年以上前の調査が不十分であったことが明らかになったのです。

大飯原発でも破砕帯調査は、30年程前の設置の頃に行われただけです。地震の専門家が指摘するように、破砕帯が活断層である場合、地震によって同時に活動し、地表にずれを生じさせ、配管や原子炉建屋を破壊しかねない深刻な影響を与えます。

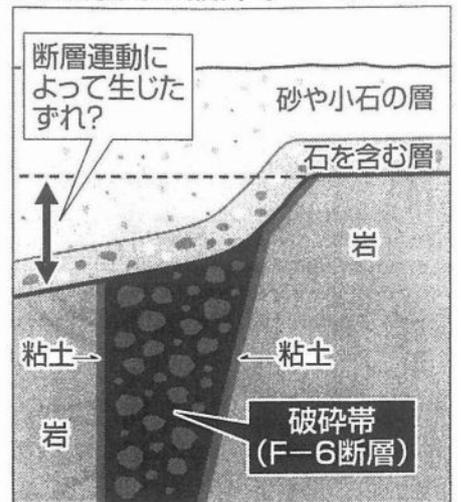
野田総理は、昨日、大飯3・4号の再稼働を進めると述べました。しかし、このように新たな問題が出てきたのですから、早急に調査が行われるべきです。

国の専門家会議の委員も、「国の安全審査では事業者の調査データのすべてを確認しきれてはいない。全データの再確認や現地調査が非常に重要だ」と述べています。
(6月7日中国新聞)



出典：2012年5月8日 第72回福井県原子力安全専門委員会 資料No. 1-2より

大飯原発の破砕帯のイメージ



※関西電力資料を基に作製

地表ずれる可能性

連動地震で
専門家指摘
「早急の調査必要」

2012年6月7日 中国新聞

